

## 第4回新市将来構想策定小委員会

# 議 事 録

# 第4回新市将来構想策定小委員会会議録

## 1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成15年5月30日(金) 午後6時30分
- ・場 所 長岡市役所大会議室

## 2 会議出席委員の氏名

豊口 協	二澤 和夫	山本 俊一	外山 康男
佐々木保男	熊倉 幸男	米持 昭次	坂牧 宇一郎
長谷川 孝	朝日 由香	村上 雅紀	北村 公
池田 守明	石黒 貞夫	小池 進	高野 徳義
野田 幹男			

以上 17名

## 3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

## 長岡地域任意合併協議会新市将来構想策定小委員会

事務局（北谷）

皆様、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまより長岡地域任意合併協議会第4回の新市将来構想策定小委員会を開催させていただきます。

なお、本日の小委員会は委員全員のご出席をいただいておりますので、小委員会規程により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

また、この小委員会委員の変更がございましたので、ご報告いたします。お配りしております委員名簿をご覧ください。栃尾市の外山康男様がこのたび栃尾市助役に就任されました。従いまして、山谷一郎委員に代わりまして本日の会議から当小委員会の委員になられましたので、ご報告申し上げます。外山様、よろしく願いいたします。

委員（外山 康男）

よろしく願いします。

事務局（北谷）

次に、本日の議事に係る資料のご確認をいただきたいと思います。事前に配付したものの、また本日追加したものがありますので、それぞれ必要なものがあるかどうかご確認をお願いします。本日の資料として会議次第、資料1 1、1 2、資料2、資料3、資料4、資料5及び委員名簿を配付しております。なお、会議次第、資料1 1、資料2、資料3につきましては事前に送付させていただきましたが、資料1 2、資料4、5及び委員名簿については本日用意したものであります。また、資料2につきましては若干の修正部分がございましたので、事前に配付したものを本日お配りしている資料2に全て差し替えていただくようお願い申し上げます。

それでは、お手元の次第に従いまして順次進めさせていただきます。なお、恐れ入りますが、ご発言の際にはお近くのマイクを使われますようお願い申し上げます。

それでは、議題に入りますが、この後の議事進行につきましては豊口委員長よりお願い申し上げます。

委員長（豊口 協）

それでは、議事の進行をさせていただきます。よろしくご協力いただきたいと思います。

今日用意されました小委員会の内容につきましては、お手元に先ほどお配りしてございます議事次第に従いまして進めてまいります。今日の前半につきましては、この間までの引き続きの諸報告を受けまして、後半は将来の8市町村の合併した後のイメージにつきまして、それぞれご意見等をご発言いただきたいと思いますと考えております。よろしく願いいたします。

それでは最初に、報告事項の1、まちづくりワークショップの結果につきまして事務局から報告をお願いいたします。

事務局（竹見）

合併協議会事務局の竹見と申します。よろしくお願いたします。

ワークショップにつきましては、住民の方々50名が7グループに分かれて、第1回目を4月17日に行い、以降4回、先日5月21日に結果発表ということで7グループの方々が合併した後の新しいまちの将来像についてグループ同士で発表されたということです。前はビデオを皆様方からごらんになっていただきましたけれども、本日は実際にワークショップのメンバーの方々がいらっしゃいますので、直接皆様方に発表をするというような形で進めていきたいと思ひます。以降全体コーディネーターの小疇さんが来ていらっしゃいますので、経過とか概要を説明した後に直接メンバーの方々から発表をしていただきたいと思ひますので、よろしくお願いたします。

小疇コーディネーター

こんばんは、ワークショップのお手伝いをしました小疇と申します。

お手元の資料ナンバー1-1と資料ナンバー1-2、これがまちづくりワークショップの資料になっております。資料ナンバー1-1の13ページをまずごらんをいただきたいと思ひますが、前回もお話ししましたように全部で七つのグループに分かれて討論を行いました。開催状況をごらんいただきますと、4回のところ、あるいは5回のところ、6回のところと、各グループ自由に各ワークショップの間で会を持ちまして話し合いを進めました。第2グループについては5月21日の後、昨日も会議をやっておりまして、昨日の会議は何か飲みながらの会議で大変盛り上がったというふう聞いております。こんな形で各グループが自由に討論を重ねたということでございます。

それから、このナンバー1-1の資料は、各グループのまとめ役、進行役が書いたまとめの資料になっております。ごらんのように各グループが独自のやり方で、ファシリテーターと呼んでおりますが、その引き出し役の個性を尊重した形で会議を進めました。

資料ナンバー1-2は、5月の21日のときに発表しました模造紙そのものを縮小コピーでお手元にお届けをしてあります。それに基づきまして、後で参加者の方から発表していただきます。このワークショップの当初、このワークショップは何のためにやるんだと。あるいは、結果が本当に生かされるのかと。単なるやらせのワークショップじゃないかという意見が何人の方から出されました。しかしながら、これ進めていきますうちに、とてもいい雰囲気になってまいりまして、何のためにということはもうクリアされたと思っております。各グループで何グループかがもう既に和気あいあいとした飲み会もやったり、非常に打ち解けた形で進められております。そこで、どう生かされるのかと、この小委員会にどういう形で報告をされるのかということが大変問題になりました。資料1-1のように担当者がまとめてしまつて、この小委員会に報告したのではなかなかワークショップの真意が伝わらないんじゃないかということをお考えまして、ぜひ参加された方々、直接小委員会の方々に報告をしていただきたいということを前回お諮りをいたしまして、快くご承諾をいただきまして、今日参加者の方々が1グループから7グループまで、自分たちが話し合つてまとめてこられたことを生の形で発表していただくという形でやっていただきたいと思っております。

それでは、時間もそうないと思いますので、第1グループから順番に前の方で発表していただきたいというふうに思います。第1グループの方、よろしいですか。一グループおおむね5分という形で発表いたします。全部の発表が終わりましたら、このグループにこんなことを聞いてみたいということは、ぜひ直接参加の方にお聞きをいただきたいというふうに思っております。それで、時間が限られておりますので、次のグループの方はもう前の方で準備をしていただけるとありがたいと思います。第2グループの方は前に行ってくださいと。

それでは、第1グループの方、発表お願いいたします。

#### 1グループ(原 忠生)

それでは、皆さん、お疲れさまです。ワークショップ第1班の長岡の吉田さんと見附の原が報告させていただきます。指導していただきました寺島アドバイザーのもとでワイワイ、ガヤガヤと進めることができたわけなんですけど、まとめ方に問題がありまして少し反省しております。前は、各地域からの方々が1分ぐらいずつ自分の得意とする分野について報告しましたが、今回は私一人で話しますので、手法がちょっと異なりますので、多少の変更はご了承お願いしたいと思います。

今回は、大きく分けまして市町村の枠は要らない、小さなコミュニティが自治能力を育てるということで話したいと思います。天下国家を語るときは、机の上で話すよりも高いところに登って語れと言われておりますけれども、ここ市役所のすぐ近くに私の勤めている会社があるんですけど、そのの屋上に上がって見渡しますと、信濃川がずっとゆったり流れており、田園には水が張りめぐらされて鏡のように光り輝いております。西山には枳形山、小国の八石山、東山の鋸山をずっと見てみますと、これが長岡、これが新しい市になるのかという思いがしてくるわけなんですけど、それでは先ほどの8市町村のほんの一部ですけども、ご紹介したいと思います。

済みません、まずは1週間後に中之島、見附に凧合戦が始まります。小中学校のころから地域の方々から教えてもらい、伝統行事として語り伝えられた今では全国の凧愛好家との交流があり、いろいろな形をした凧を見ることが出来ます。ぜひいらしてもらいたいと思います。

次に、前回のワークショップでもすごく話題になったのですが、これが中之島町の大口径レンコンです。ワークショップのメンバーの高橋さんちの自慢のレンコンで、婦人会でもいろいろメニューを研究されておられるそうですが、ぜひ正月だけの料理と言わず、年中食べてもらいたいということで宣伝しておきます。

それから、三島町と栃尾市の方からはメンバーがいらっしやらなかったのですが、申しわけございませんが、割愛させていただきます。

次に、山古志村ですけども、今話題の「こころ」で全国から問い合わせがありますが、闘牛、錦鯉、棚田で有名です。百聞は一見にしかずということでもって、ぜひ朝夕、季節によって変わる棚田を堪能してもらいたいと思います。この写真は、私の会社に勤めている同僚が撮りコンテストに受かったものなんですけど、すばらしい写真を見ることが出来るかと思っております。

それから、長岡市はもちろん日本一の大花火と民謡流しをやっておりますが、皆さんの脳裏にしっかり焼きついていると思います。実は、私も民謡流しには会社で参加させてもらっております。

次に、越路町の有機肥料で米づくりということで、ワークショップの方が話しておられたんですが、人工衛星から見て種の生育状況が監視できるという話を聞いて、本当に私もそんなことができるのかということでびっくりしました。また、その会社は手前みそということで話も出て、結構盛り上がっておりました。

最後に、上流と言われている小国町は銀杏の栽培が有名ですが、のっぺに入れて食べるだけではなく、今は銀杏アイスクリームですとか、このようにワインも生産されております。合併の暁には、私は飲みたいと思います。

さて、この地図を見てもらいたいと思うわけなんです、この黄色く書かれているところは今の市町村の枠組みなわけですが、この枠組みが遠くの方には見えないと思いますが、これが新しい市となる枠組みであります。国から地方分権、あるいは市から地域分権といったような感じでもって目指しているわけなんです、行政の持っている権限を地域に譲り、地域のことは住民みずからが決定し、責任を持って事業を実行してもらいまちづくりを目指しております。長岡でもまちの駅、ながおか市民センターがコミュニティーセンターとしての機能をしつつあります。ここにおられます吉田さんも利用されているということでもあります。

また、5月18日には小国町の芸術村会館でワークショップの臨時の会議を1班では開きました。人情あふれる小国町のメンバーの方や役場の職員の方々からコミュニティー活動を聞き、どこからでも発信することができるということを実感いたしました。行政と市民が手を取り合って、新しい地域コミュニティーの都市づくりに取り組みましょう。

どうもご清聴ありがとうございました。（拍手）

小疇コーディネーター

ありがとうございました。1班は大変にぎやかなグループでありまして、隣のグループからあそのこのグループがうるさくて自分たちが話ができないというくらい盛り上がったグループでした。資料1 1の4ページに1班のまとめが載っております。特にこのグループでは枠ということを非常に重視しまして、守らなければならない枠と新市になるために必要ない枠があるんじゃないかというあたりを中心に論議をしておられました。

それでは、第2グループ、お願いいたします。

2グループ（下村 靖）

こんばんは、見附市の下村と申します。

まず、第2グループのメンバーの紹介からさせていただきたいと思います。メンバーは三島町、中之島町、越路町、栃尾市、そして山古志村、そして見附市の計6名でございます。残念ながら第2グループ、特異なグループでございまして、長岡市の住民代表の方から参加をいただけなかったという、ちょ

っと稀なグループでありました。

まず最初に、グループのワークショップをやっていった経過を追いながらご説明をさせていただきたいと思います。まず、今後の話し合いのテーマとしまして、ここにありますように地域の個性が活かされるというふうなことをキーワードに語ってみました。先ほど1班にも説明がありましたが、山古志の闘牛だとか、見附の凧合戦、長岡の花火、いろんな個性がありますが、そういった個性が活かされているまちにしようというふうなテーマでやりました。

枝の部分を紹介させていただきます。まず、生かすにはどうしたらいいか。まず、市民の意識を改革していこうじゃないかということになりました。方法としては、お互いの地域を知る。お互いの地域の歴史、あるいはそれぞれの文化等々ございますので、それをまず知っていこうというふうなことがありました。続きまして、社会実験とあります。これは幾分8市町村の行政が一つになるわけですから、最初から100点満点の行政のシステムづくりは期待しないようにしようというふうな感じです。ですから、いいことも悪いこともあるんだけど、それをどんどん積み重ねていくことによって、よりよい社会になればいいんじゃないかというふうな意味合いを込めまして、大きな社会実験というふうにさせていただきました。

2番目、行政制度の改革というふうなことも検討させていただきました。この中で昨今話題になっておりますが、各自治体に自治権を持ったらどうか、地域自治組織の提案等々もございました。そして、選挙区を設けるとありますが、先ほど1班の大きな地図でおわかりになるとおり、非常に面積が広い地域でございます。旧8市町村内でそれぞれに選挙区制度を設けてやれば、小さな町でも議員さんが選出されるようなシステムをぜひつくってもらいたいというのが我々のグループの願いでございます。

3番目、循環型ネットワークであります。8市町村内の中で地産地消や地域通貨などを利用してどんどん、どんどん地域内に物や、お金や、そしてごみ問題等々の環境のリサイクルをどんどん、どんどんやっていこうじゃないかというのが循環型ネットワークの提言でございます。

4番目、各地域の役割分担とあります。先ほどから説明しておりますが、三島町でありますと、住宅地が大変多いように聞いておりますし、中之島町でありますと、田園が広がっております。そういった地域に役割分担を持たせたらどうかというふうな提言がこの4番の地域の役割分担というふうになっております。

そうした中で、最後にまとめようということで、こちらの方に移らせていただきます。8市町村のキーワードは何かというふうに、こういうふうにかえまして、大きな農業都市、主幹産業が農業であってもいいんじゃないかということで、山と里と都市の調和ということを考えてみました。なぜこうなったかといいますと、白図にまず8市町村の区域をなぞってみまして、山の地域、あるいはまちの地域、あるいは田んぼの地域というふうになぞってみましたらば、やっぱり圧倒的に山が多い、田んぼが多いということに気づきまして、緑の地域ということで農業というふうにさせていただきました。

そして、昨日の臨時ワークショップを開催させてもらったんですが、その中にはこんな意見が出まし

たので、資料にはありません。ここに張ってありますが、30万都市、県内では確かに大きい都市であろうと思います。しかし、全国的に見れば人口的に並の地域だということに、改めてもう一回みんなで気づく必要があるんじゃないかというふうに意見が出ました。そして、30万都市が例えばフランスのチーズがおいしい何々地方、ワインがおいしい何々地方というふうにあります、農業の新市、長岡市でも何でもいいんですが、長岡市というキーワードでもおもしろいんじゃないかという意見が出ましたので、ご説明させていただきます。

あと、やまと、むらと、そして都の部分について説明させていただきます。やまの部分です。まず、里山の自然を有意義に生かしていこうという意見がありました。そして、山の林を学校の自然林、学校林ということで教育の一環に利用したらどうかということも出ました。そしてまた、山は山のままでいいんじゃないか。人間の手を加えずに、山のままにしようよという意見がありまして、その結果どうなるかといいますと、結局ブナ林が多くなるんだそうです。そして、ここに書いてありますように目指そうよ、300年後にはブナ林の世界遺産登録をという意見も出ました。

続いて、むらです。要は農業のやつです。最近道の駅とか市町村にたくさんできておりますが、道の駅があるのであれば、例えば無人販売所や情報発信基地としての田んぼの駅もあっていいんじゃないかという意見が出ました。その田んぼの駅は、ビオトープやら市民農園等と併設して農業の一翼を担う施設にしていこうというのが出ました。あと、農業による雇用の拡大があります。どうか若い人たちに農業による就農の勧めをしていって農業を発展させていこう。あるいは、新しい発想で株式会社による農地取得を進めたら、今までの農家の方々が考えつかなかったようなシステムが生まれるんじゃないかというふうなことも出ました。あるいは、半分冗談なんですけど、当グループ、新市の名物まで考えてしましまして、1,000万円の錦鯉を洗いにして食べるという名物もどうかなという提案も出ました。

最後に、都市のところですか。老人力を生かすまち、元気なおじいちゃん、おばあちゃんもたくさんいますんで、そういったおじいちゃん、おばあちゃんから福祉の分野、あるいはボランティアの分野、あるいは農業の分野で一生懸命働いていただこうという部分がありました。

最後に、リンクする部分で、お互いのアクセスする部分を充実し合って、お互いのコミュニケーションを図っていこうという部分もございました。

最後に、昨日のワークショップで皆さんの意見で気づいたことがございますので、せっかくの機会です、発表をさせていただきたいと思います。ワークショップで気づいたこと、未来を語り合うときに、眉間にしわを寄せたり、口を真一文字に結んで難しい顔をしては、なかなかよい案が浮かびません。そんなときは目じりを下げて、口元を緩めて、にこにこ語り合うことがよい意見が出るんだなということがわかったという意見が出ました。

以上でございます。ありがとうございました。（拍手）

小嶋コーディネーター

どうもありがとうございました。このグループは、1カ月ちょっとの短期間の間に7回という会合を



重ねて、昨日はせっかく知り合ったんだから、別れたくないと、これからもずっとこういう集まりを続けていきたいという形になったそうです。

では、第3グループ、お願いします。

3グループ（小野英子）

皆さん、こんばんは。3班の中之島の小野と、見附の川崎、三島の小池で今日は発表させていただきます。

まず最初に、私たちはこの決めた中に題名をつけました。まず、ホテルが住めないところはまちじゃない！。このホテルを人間に例えます。そして、この題名の中に一番大きいのが世界に向けて子供たちに誇れる地域自慢できる街にしたい！、いいまちだと言われるようなまちにしたいというのが3班の意見でした。

次に、この中の全体を川崎さんからお願いします。

3グループ（川崎一夫）

どうもこんばんは。この題名に、じゃあと何が皆さんでできるかということで、地産地消を実践したい。この中に各地の特産品、かぐら南ばんとか、ウルメとか、銀杏、そういう地域にある、それから長岡野菜、これかなり有名になってきましたけど、こういう地域の野菜を文化の祭りとか、そういうものと含めて、食と祭りで一緒にイベントとか、そういう地域の交流を盛んにしていったらいいんじゃないかと。その中でこういう特産品、それから祭り、文化の交流とか、それから新市の食の陣ということで特産品の開発、こういうものを各地の中でやったらいいんじゃないかというのを新市の中でイメージとしてつくってみました。祭りと人と食、そういうものが一緒になった新しいまちづくり、これを特産としてイメージをしてみました。

そのほかに体育施設とか文化施設、各市町村にかなりのいい施設がいっぱいあります。長岡、見附、いろんなところで、特にまた見附は各施設が無料で市民には利用できるという、こういう特典もあります。そういうものを新市の中でもいろいろと利用していったらいいんじゃないかと。それを今度交通手段によってシャトルとかということも考えましたけども、ここにもありますけど、環境を創造していく中で、人との交流の交通アクセスが一番大事になってくるんじゃないか。食の文化と、それから祭りとか、こういう文化、それから施設、こういうのを人との交流を一緒にするために一番アクセスが大事じゃないかと、そういうふうに我々は考えました。それに対してもボランティアとか、それからIT、そういうメディアとかという、そういうものもアクセスという意味で、新市として一つの世界に向けての地域自慢というふうな形で一緒に考えてみました。

その中でも、また新たに交流として医療交流、医療の中には長岡市を中心とした中で大きな総合病院とかというのは一つのところにまとめて、それをまたいろんなそれを取り巻く各市町村の中にITも含めた中での医療交流としての新しい革命的なやつを周りに、それから老人施設とか、そういう福祉の施設を各地域のところに散らばせてやっていったらいいんじゃないかと、そういうふうに我々は地域自慢

できるというふうに考えてワークショップを進めてまいりました。

じゃ、次です。

### 3グループ（小池敏雄）

それでは、最後の方にまとめに入ります。今ほどいろいろ発表させていただきました。本当に世界に誇れるものがたくさんあると思うんです。例えば教育でいえば技科大もあり、あるいはデザイン関係でいえば造形大があり、あるいは会社においても非常に世界に誇れるようなメカトロ関係の会社、素晴らしい会社がいっぱいあります。そういう最先端のいくものもある。それから、歴史的に見ても非常に有名なもの、本当に日本が誇れるもの、いろいろあります。あるいは、各地域にこういった根づいた文化がたくさんあります。こういうもので最先端を目指しながら、なおかつ文化面も大切にしていこうと。まして、これからどんどん社会が進んでまいりますと、コンピューターで仕事をしたり、いろんな面で神経をすり減らしてやる仕事が多くなるわけです。そういう意味でいやしがあるような、そういう住宅環境、これだけ素晴らしい自然が残っている環境を本当に大切にしながら融合していくといいますが、最先端のものと、そういう自然が融合できるような、あるいは文化がきちんと継承できるような、そういうふうな新しい市にしていけたらというふうに思います。

ここに最後にタイトルをもう一度繰り返しますが、ホタルが住めないところはまちじゃない！、これは本当にみんなが本当に一生懸命やって、帰ってきて安心して住めるような環境のよい、住み心地のよいまちにしたい、市にしたいと。それが子供たちに継承し、なおかつ世界に自慢ができるような市になっていけばということで考えました。

以上でございます。（拍手）

小疇コーディネーター

どうもありがとうございました。

では、第4グループ、お願いします。

### 4グループ（陶山勝弘）

委員の皆様、ご苦労さまでございます。第4グループの発表させていただきたいと思います。

我々第4グループは、いろいろな考えを持った方の集まりでした。初回のワークショップで、何で合併しなきゃなんないんだという意見までありまして、新市の構想どころか、合併反対論まで出そうな、そんな雰囲気、そういうグループでした。なぜそういう意見があるのかなということ突き詰めていきましたら、みんな結局今いる環境、それから現在のまちですとか、コミュニティー、それからそういう環境がものすごく自分に適している、満足しているというあらわれではないかという結論に達しました。

そこで、現在の個々の特色を生かして新しい市の構想を考えてみようということで、パッチワーク型新市構想という発想で私も討論いたしました。ご存じのとおりパッチワークというのは、小さな様々な色や柄を持った布切れを寄せ集めて、あるいは重ね合わせまして、1枚の布に仕上げます。でき上がっ

た布は、ほかにはない独特の雰囲気や味が生まれます。今自分のいる地区や、校区、町内会、老人会で  
すとか、そういったコミュニティーが1枚の布として現在の色を出して、それが新市という1枚の布に  
仕上がればと。独特の色合いを持った新市になるのではないかとこの考え方です。

また、合併にあたっては、よくありがちな1枚の青写真をもとにこういうふうにする、ああいうふ  
うにするというふうにどんどん色をつけて急いで仕上げるのではなく、パッチワーク同士が緩やかに  
手をつないで次第に距離を縮めていくという。そして、最後には1枚のパッチワークとして仕上がると。  
そうすれば、他にはない新しい市になるんじゃないかというふうにも考えました。

実際に、そのパッチワークの結びつき方にも優先順位があると思います。防犯、防災、安全、それか  
ら救急医療体制などのネットワークの確立、こういったスピードを求められるものもあります。反対に  
現状を急激に型にはめて一本化すると、不満を招くようなものもあるのではないかと。例えば現在市や  
町ごとの行政サービスは市町村ごとに違うと思います。比較的市部の方に比べまして、町部の方の行政  
サービスというのは、やはり老人家庭とか、そういうものがありますので、行政がやはりうちに近いと  
ころまで来てくれる、そういう感覚を皆さん持っていると思うんです。それで、町民の人間は市民にな  
る時間をいただきたいというふうにも考えました。ですから、新しい市は小さなコミュニティーが緩やか  
につながりながら、徐々にその距離を縮めて1枚のパッチワークをつくっていく。つまり時系列と、そ  
れから深みを考えた構想づくりが望ましいという結論に達しました。

実際に見附の今町と中之島の尻合戦などは行政の線を越えて行事が行われておりますし、それから長  
岡市の親沢町と、それから越路町岩野仲島は学区交換ということで、お互いに利便性の高い近くの学校  
に通えるように、行政としては珍しい柔軟な対応で融通し合っています。また、全国的にも有名ですけ  
ど、千谷沢村は昭和の大合併で一つの村が小国町と越路町に分かれてしまった。もともとは一つの村で  
あったわけですが、結局は人と人のつながりというのは、隣近所ということはいまだにも変わってい  
ない話だと思えます。いわゆる行政の線がなかった大昔の感覚に戻れば、隣のコミュニティー、隣の村、  
隣の人という感覚が距離を縮めていくと。そういう発想であればいいんじゃないかと考えました。これ  
にこの地域特有のもの、信濃川ですとか、田んぼ、それから大規模医療施設の密度の高さですとか、そ  
れから高専、技大といった工業系高等教育機関、こういった長岡地域独特の環境をこのパッチワークの  
縦糸、横糸に織り込んでいくと、もっと長岡地域独特のものが生まれてくるのではないかと思います。

それと、やっぱり最後は人づくりだと思えます。行政においては、単なる窓口ではなくて、話を聞  
いてサポートしてくれたり、まとめてくれたり、提案とか、情報提供してくれるような人が各行政窓口  
にいてくれたらいいなと思えますし、それから民間においても任意団体ですとか、NPOといった組織、  
人材が地域内とか、地域間のつながりをコーディネートできるような人がいたらいいなと思えます。そ  
ういった人づくりという部分も一緒に考えていただければと思います。

最初にお話ししましたとおり、当グループは本当にいろんな意見が飛び交いまして、途中で第4グル  
ープというのは結論が出ずに崩壊してしまうのではないかとこの思ったのですが、一番最後に、ワーク

ショップの中の終了時にメンバーの一人がお互いの心の中にはもう市町村の行政線はないんじゃないの  
という意見が出て、そうだねということでみんなが賛同したということ報告いたしまして終わりにし  
たいと思います。

以上でございます。（拍手）

小疇コーディネーター

どうもありがとうございました。前回以降また新しい資料を使って発表していただきました。

次は、第5グループ、お願いします。

5グループ（片山和郎）

改めて、皆さん、こんばんは。第5班です。牧野のお殿様と因縁浅からぬ三島の。

5グループ（牧野節子）

牧野節子です。

5グループ（片山和郎）

お殿様と深い関係が全くない栃尾の片山が報告いたします。

まず最初に、世が世であるならばお姫様であったかもしれない牧野さんからお願いします。

5グループ（牧野節子）

5班は、資料1 2の8ページに未来に残したい宝ということで、最初に自分のまちを自慢し合いま  
した。そして、その他にあなたのまちのこういうところがいいなというのを今度はそれぞれでこの中  
にもつけ足して、よその市町村がうらやましがっていることもつけ足してあります。そして、その討議を  
した結果、私が感じたことは、みんなそれぞれ本当にしっかり自分の宝を持っていて、堂々とこの会  
に出ていらした方達だなと思いました。その結果、私は新しい市になったら栃尾の自慢なさっていること  
も私のまちだという、すごくうれしさがわいてきました。小国の方の言っていられっしやるところも私の  
まちだと、私の市だという思いがしました。

それで、次のページ、9ページです。これは最後の結論、キャッチフレーズが要るんじゃないかとい  
う思いで、まず精神年齢、私大体精神年齢をすぐ下げることが得意な人間で、小学5年生になった気持  
ちで、ぼくのまち、わたしのまち8つで作る1つのWA（わ）！という、そういうキャッチフレーズだ  
と子供たちが振り向いてくれるかなという思いで、こういうふうになりました。そして、私は「わ」とい  
う言葉がとても好きで、たまたま辞書を持っていたので、「わ」という字を調べましたら、杵、輪、  
和らぎのわ、環境のわ、我のわ、それにもう一つ、話のわというのがありまして、それをわくわくとい  
う、垣根を超えた新市にとってもう杵は要らないという思いでこういう一つの絵にしました。これは、  
ちょっとキャッチコピーを意識してつくりました。

5グループ（片山和郎）

重複するところがあるかもしれませんが、私の方からも話をさせていただきます。私たちは、まず各  
地域の誇れるもの、伝えたいこと、宝物を選んでもらいました。そして、それをその地域の言葉や表現

であらわしてもらい、それをもとにしましてその地域以外から見た各地域について話し合い、八つの地域が持つ共通の認識を探りました。その結果、ここにあらわしました歴史伝統、文化、産業、自然、まち、人が共通事項としてあらわせることに気づきました。産業では米とか、機械製造とか、繊維とか、情報通信、酒、米菓、歴史伝統では米百俵、牛の角突き、凧合戦、自然では信濃川水系、雪、田園風景、山並み、人では河井継之助、小林虎三郎、上杉謙信などです。各地域の委員の方からは、「おいらのとっこ、もっとあるよ」というおしかりの言葉をいただきそうなんですが、実はもっとあったんですが、まとめただけですので、余り気にしないでください。

この分野の事柄を新市にどう生かしていくのか。全く変えずにという思いでいくのか。これをベースに発展させていくのか。これらを見捨てて全く新しいものをつくり出すのか。そうすると、新市にどう織り込んでいくのかを検討しました。ただ、この前提としまして各市町村の入り口にあります大きな看板で、明るい未来に向かって躍進する何々のまちみたいな何の意味をしているかわからんような看板をつくらうというの、そういう方向に向かわないようにしました。それと、長岡市はドーム球場が欲しいとか、見附市はせめて体育館、越路町はせめて公園をと、三島町はせめて公民館をと、栃尾は自分の地域ですんで言いませんが、というようなどこかに比較して何々が欲しい、比較論の発想はやめよう。「ねいらとっこばっかいいねかや」ということはやめようということです。合併後地域の枠組みが広がっていくうちに、また予算も少なくなるであろうから、おねだりであったり、うちの地域ばかり何も無いという卑下した発想はやめて、今住んでいる小さなコミュニティーの村祭りや屋号などに誇りと自信を持った、自立したまちづくりを目指すためにという二つのことを前提にいたしました。

本題に戻ります。これらの共通認識をどう生かして新しいまちに生かしていくかという意見を交わしているうちに、牧野さんから先ほどありました「切り口や交わりはいっぱいあっても、結局和やかな和気あいあいのまちになるべきよね」という一言があり、私、片山和郎の和、昭和の和ともいいますが、和というキーワードが出てきました。よくよく考えたら、これを「わ」という平仮名に直し、中心にしたら、実は産業も、自然も、歴史伝統、文化も、人も、まちもみんな単独ではなくて、つながっていることに気づきました。ここに書いておきましたように和は和みとか和らぎの和とか、コミュニケーションの話とか、ネットワークの環とか、生き生き回転する枠という輪とか、仲間という意味のわとか、自立という意味の我とか、感動、感激という意味のWa!とか、そういうことだったんです。これらは単独でつながり合っているのではなく、重なり合ったり、あるいは手をつないでいることがわかりました。

新市は、この「わ」をどうつなげていくのか。各地域の現在、または過去の遺産を大切にしていって取り込んでいってほしいが、八つの地域という単なる地図上の境界の意味は全くなく、意識も一つの地域になり切っていってほしいということでもあります。産業では、小さなグローバル化を目指して欲しいと。

小さくても世界に通用する、また生業としての仕事屋を目指せるまちであって欲しいと。歴史伝統、文化では心のよりどころとして次の世代へつなげていけるまちを。自然では思い出を心に、思い出へ向かっていけるまち。まちでは、一定の集積がある、バリアフリーの集積、樹木の生け垣の集積、石畳道

路の集積、緑の回廊の集積、産業の集積、水上交通の集積などとなるまちを。何か10日間離れていたため、こんなこと話し合ったかなと自分自身、言っている本人が疑問に思っているんですけども、お許しください。

それらをまとめてあらわしたのが11ページのいろいろな“わ”をつくるのはやっぱり“人”だよねと。人が育って、住んでいる人、出ていった人がわをつくっていけるまちにしよう。今ある小さなコミュニティが生き続けるまち、村祭り等を考えました。みんなが集まれる場所と喜びのあるまち、長岡まつりとか大きな祭りを想定しました。心に刻むものがたりができるまち、伝統とか教育とか文化です。

ゆったりできるまち、受け入れてくれるところ（場）があるまち、自然とか、田園風景とか、まち並みとか、産業です。やりたいことができる、あるいはしたくない人はしなくてもいいよという、やわらかな住民参加、行政の仕組みができるまちになって欲しいと思いました。

最終的にその結果、私たちが目指したのはストレスのないまち、これは小国町の最もストレスがなさそうな参加者が発言した意見なんです、これをなし遂げることを目標とするまちに向かうことに結論づけいたしました。

以上です。（拍手）

小疇コーディネーター

ありがとうございました。

じゃ、6班、お願いします。

6グループ（倉嶋 真）

グループ6から提案します。お手元の資料のレジメ2枚にわたりまして、順を追ってご報告します。お目を通してください。メンバーは7人です。見附と山古志を除く長岡の2人、小国、越路、栃尾、中之島、三島に住む人達です。レポートするのは越路の倉嶋です。私たちが4回の話し合いでまとめたところがここにお示ししたものです。話し合いの1回目から順をたどった上で、4と絡めながら3の新しい地域づくりに係る提案にまとめたいと思います。

初回は、合併したからってどうなるの、30万都市になってどうなるのかといった声にあらわされたように、このワークショップに期待されているものにどうやって近づいていったらいいのか戸惑いながら始まったことが思い出されます。参会者各々に、合併したらどんなふうだろうかという夢を見たい思いと、一方にある今住むまちへの愛着とかがやはり少なからず交錯していたように思います。取りとめなく話を交わす中で、今住むまちへの愛着や帰属意識とともに、抱えている課題、例えば農業の担い手不足や、嫁が来ない、子供がいないといった切実な悩みもそのまちの人から聞くことができました。それゆえに、この地域が一つになることで何か糸口ができるかもしれないといった期待感も聞くことができました。こうした声とは別に、今住むまちへの愛着や合併したときの喪失感といった情緒的なものを障害としないためには、新しいまちの中で役割が与えられたらうれしい。何か担えたらうれしい。それが張り合いになるし、何か貢献できること、奉仕できることがあってこそ、その喪失感を克服できるのか

もしれないといった声もありました。こんなやりとりの中で、日本一のごみ焼却場を引き受けようという声までありました。話し合いを詰めて、各々のまちが何を担うことができるか、改めて今住むまちの力、いいところを検証してみよう。よそのまちの人からはどんな評価を受けているだろうかを次回の取りかかりにすることにしました。

2回目の話し合いに移り、何を担え得るか、価値ある素材を確かめることにしました。まちごとにあれやこれやといいところを確かめ合ったものの中から2にその一部を載せました。ここに載ったのは、牛に花火に凧、鯉に紙、酒に油揚げ、蛭に田んぼと、森に月並みですけれど、他にも福祉が進んでいるとか、社会教育や文化事業がいい、大学や高専があるといった切り口でも声が上がっていました。そして、これらの価値ある素材はそれらをつなぐことで作用し合い、もっと生きるだろうと、このことも確かめ合ったように思います。この検証作業でこれからも大切に、共有していきたいものが確かめられました。これに続いて、今度は新しいまちとしてまとまっていく8市町村に住む人たちがこの新しいまちを実感できるように何かきっかけが欲しいということになりました。一体感を醸し出すためにいろいろなアイデアが出てきました。紹介します。新しい祭りを起こしたい。大きなイベントを仕掛けたい。

あちこちの伝承芸能を一遍に見たい。8市町村をめぐるウォークラリーがしたい。官軍と長岡藩の攻防が再現できないか。あるいは、酒や米のブランド化、もっと欲張って衣食住にまたがるブランドづくり、あるいは遊び回するには横の交通網が欲しいなどなどでした。おもしろいのが農業の担い手不足、棚田の保全にヒントを見つけたシルバー世代の活用と、これをもっと進めてこの世代のレクリエーションゾーンづくりといった声も上がりました。

3回目はまとめの前段に当たり、三つの何をしたいかをこれまでの話し合いを踏まえて、めいめいから意見を持ち寄ることにしました。一つに、8市町村が一緒になって何をしたいか。二つには、思い切って新市の市長になって何をしたいか。そして、普段の生活単位としての地域の大切さ、残したい人のつながり、子供たちの育みといったことに頓着した意見が少なくなかったことから、昔のよかったこと、何を残したいかを加えて、三つの何をしたいかとしました。これは、まちが大きくなること、都市化する、そうなれば先細ること、都市化の負のイメージ、そのことへの危惧と言えるかもしれません。こうした憂いは、異口同音に聞かれていました。ここでの意見は、その一部をこの後にまとめる提案の中で触れることにします。

こうして正味3回の話し合いから、今日やっとお示しできるのが3に新しい長岡地域のテーマと、4の8市町村・地域で大切にすることとしてまとめたものです。時間の制約もありますから、3と4を絡めながら提案します。まず、「深呼吸してごらん街(そこ)に元気の素があるから」かわいらし過ぎて、いささかくすぐったいコピーですけれど、これは信濃川水系や、この地域を囲む緑の山々に思い、効率優先でなく、自然環境を生かした、いやしの地域を謳い上げたものです。街をそこと読ませるのは改めて足元を見て欲しいという思いですし、素とは源と言いかえることもできると思います。また、この自然あつての恵みに思いをめぐらせれば、地産地消やスローフードといったことをも連想させるものです。

次は、未来を見つめ育てる街。括弧にあるとおり、米百俵の精神にヒントを得たものです。連綿と受け継がれてきたであろう、この尊い思い、将来を担うよき子供たちのためにこの精神の土壌をより進展させたいと願う気持ちです。また、このことは米百俵をいうばかりでなく、独立性、自治性、国際性、そして平和の希求といった、この地域の先人たちが私たちに示してくれた尊い思いにもつながるものです。食らうことより学ぶことをもって立つ学のあるまち、そんな地域や市民でありたいし、子供たちを育てていきたいという思いも込めています。4にある、自ら考える知恵をつけていって欲しいという思いと、それを培ってやることのできる環境づくりが期待されます。投票率の高いまちであって欲しいものです。

次は、古きを尊ぶ未来都市。これも括弧を添えています、やはり4に据えた老人が先生、ゆっくりリズムに掲げた物を大切に作る心、近所づき合い、小さなコミュニティー、自然、人の温かさ、その地域にしかないものを将来にわたって伝えていこう、そのために高齢者に学ぼう、まねぼう、子供たちにつないでいこうということです。古きを尊ぶは未来を見詰め、育てるまちの一つの方法論ということができると思います。ふだんの暮らしが暮らしやすいということが基本です。古きを温め、これを踏まえた30万の人垣づくりを進めたいものです。

さて、四つ目です。東日本最大の歓楽街もという随分豪勢なキャッチフレーズになってしまいました。意見を言った人の思いに、また誰かが輪をかけちゃったというところ。深呼吸に、育てるまち、古きを尊ぶだけではつかまえにくいものだらけですから、どうしても景気づけにいいものが欲しかったということです。歓楽街もの、もに気持ちを込めています。これは2回目の話し合いで、この地域を一つにまとめるために何をしようかと知恵を絞ったときに出てきた声に色がついたものです。このもとになった意見は、蓬平にカジノをつくらうでした。せっかくの合併ですから、何か一発仕掛けられまいかといった思いだったと思います。にぎわいの呼び込み、経済の活況にとって、これしかないと信じたことと思います。県都たりたいという思いと併せ、夢が広がります。なお、この東日本最大の歓楽街は、グループ6の成果の中では他のグループの人たちから最も支持をいただいたことを添えておきます。

ご清聴ありがとうございました。（拍手）

小疇コーディネーター

ありがとうございました。

ゆっくりリズムということで大変ゆったりとした5分間が過ぎたようです。最初にご説明がありませんでしたが、この模造紙のコピーの中で小さな黒丸がぼちぼち、ぼちぼちと張ってあります。これは、全員の発表が終わった段階で模造紙を壁に張り出しまして、参加者全員が八つずつのシールを持ちまして、自分が一番共感したところにそのシールを張ったという、そのシールのコピーの跡です。

それでは最後、第7グループ、お願いします。

7グループ（小原ファシリテーター）

7班のお手伝いをさせていただきました小原と申します。本来見附市の立川さんがご発表いただく予



定でしたが、急遽ご都合が悪くなったということで、残念ながら他の方にもお伺いしたんですけども、ちょっとどうしても都合がつかないということで代理で発表させていただきます。私が発表するにあたって各班の皆さんに一応私の方で代理をさせていただきますというお断りを入れたところ、本来発表するはずであった見附市の立川さんの方から申しわけないという言葉と一緒に、ぜひこれを使ってくださいということでわざわざ原稿の方を送っていただきましたので、その原稿をベースにご説明させていただきますと思います。

7班は、新市における新しいまちづくり構想を考えるにあたって、まず最初に各地域の自慢や長所など自分の地域のここはすばらしいとか、あなたの地域のここもすばらしいといった、他の地域から見ての意見も織りまぜながら各地域の魅力や長所などを考えてみました。それがお手元の資料14ページで、あとこちらに張ってある資料でございます。皆さん非常に発言が活発で、いろんな情報を持っていらっしゃるもんですから、記録するのが非常に大変で、ちょっとほかの班に比べて字が汚い、見栄えがちょっとよくないのはそのためということでご了承ください。

この中で、特にほかの地域からどう評価されているのかという新しい気づきというのが大変参考になりました。また、各地域とも自分たちの地域と長岡市といった関係はわかっているような感じなんですけども、その他以外の地域同士という関係が意外にわかっていないというか、よく知らないことだなということを非常に感じました。例えば山古志地区の鯉の養殖の話で、今はもう輸出産業であるということ。あるいは、鯉の産卵は卵の花が咲いたらといったような自然と歩調を合わせた生活スタイルといったようなものも非常に新しい気づきでしたし、越路町の酒米づくりでは衛星からのデータを使うといったようなお話も大変新しい発見として興味をそそられました。こういった話し合いを通じまして、こういう各種の情報や事例を発信するためのシステムがこれから欠かせないんじゃないかということを実感いたしました。それが最後の取りまとめのところでも情報の交換や共有、発信と、あるいは交通といった問題のネットワークといったようなものが非常に大事だという意見につながってきました。

さて、本来の新市構想の話し合いといったところを始めたところテーマやスローガン、そういった意見は出てくるんですけども、いま一つ説得力のある具体的な話し合いが進まなくなったもんですから、方向性を少し変えて、より具体的なまちづくりのための方策といったものを考えるように話し合いの仕方を少し変えました。その中からメンバーから出たイメージやテーマといったものが下に少し書いてあるものなんですけども、こういったものをもとにどう具体化するかという話をし始めたところ、自慢のできる自然環境ですとか、すばらしい特産品の必要性ですとか、身近な農業と安全な食文化の関係、あるいは地域文化、歴史の伝承の必要性というお話がいろいろ出てきました。それらを包括的に考えたときに、すべての取り組みに必要なのは地域コミュニティの充実ということ、それから住民参加型のボランティア活動の必要性が不可欠だというような話になりまして、我々の考えるテーマとしては地域のパワーアップ大計画ということで、最後に大をつけたところが我々の気持ちの大きなところでございます。このテーマをもとに話し合い始めた結果として、今ある地域資源を有効に活用しようということ、

そういうお話をしていく中で特にうちの地域では高齢の方の元気がいいということが出ましたので、それを高齢者資源ということで挙げて、その活用や活躍の場を考えてみようということになりました。その結果として、特に地域の高齢者資源からなるパワーを地域の子育てや教育に積極的に参加してもらい、おおらかで厳しい子育て知識を発揮してもらったり、楽しくすばらしい地域文化、歴史の伝承に役立ってもらえばいいと。何よりも高齢者の方自身の生きがいや健康維持に役立てば最高だということで、この高齢者資源を我々の生かしたいものの一つとして大きく挙げました。ごらんいただくように、他の班の方々からもたくさんご支持をいただきました。

また、こうした話し合いを進めるうちにだんだん話がエスカレートしてきまして、一つは生命を大切にということも一つのテーマに考えておりましたので、農業と安全な食文化ということに着目して、農産物あるいは産地の特色を生かして山間地の棚田や生活排水の流れ込まない田畑での安全作物の生産宣言をして、魚沼のコシヒカリを超えるほどのブランド農作物を徹底的に目指そうということでブランド米というような言葉が出てきました。

さらにエスカレートしまして、新市住民の民意を直接的に反映させるために新税制の採用が必要だという声が上がって、市民税を納付時に例えば納税額の1から2割を上限に地域のためこんな目的で使ってほしいという意思表示のできる市民税を納税者自身が決めるような目的税という言葉を出しましたところ、非常に皆さんから好評を得まして、一番たくさんシールがついたというような結果をいただき、我々つくった者として大変うれしく感じました。

地域ボランティア活動などを通じて住民が地域の抱えている問題を肌で感じ、より優秀な政治家を選んだり、直接行政に的確な意見を言える環境づくりも非常に大切だろうという意見が出まして、ここの住民参加という言葉も一つ加えました。

最後になりますが、住民一人一人の存在意義があり、私たちのこのまちは私たちが主役と言い切れる新しくオリジナルなまちづくりがしたいというのが7班の結論でございました。

以上でございます。（拍手）

小疇コーディネーター

どうもありがとうございました。かなり大幅に時間をオーバーしまして申しわけありません。

資料1 1の最後に3回目と4回目のかわら版をおつけしてあると思います。そこで、ふりかえりシートの中から幾つかご紹介して終わりたいと思いますが、もっともっと時間をかけて話し合えたら...と思いました。今回が最後だと思うと悲しい。こんな会議を各市町村でも是非やって欲しい。これだけの人数日数を使ったのだから、新市構想にワークショップの発表を生かして欲しいということで、ぜひこの小委員会でワークショップの結果を素材として討議のネタにさせていただきたいということでお願いをいたします。それから最後に、これもふりかえりシートの中からですが、新市での各地域（今の各市町村）の役割について考えてらっしゃる方が多いようですが、新市としてのビジョンを考えると、むしろ新市全体としての県や国や世界での役割を考えた方が、バラバラにならず、イメージしやすいと思

いますというご意見が出ました。

以上ご紹介しまして、ワークショップの発表を終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。第3回では、ビデオを通して皆さん方の活発なご議論されている姿を拝見し、またご意見を拝聴したわけでありますけども、今日目の当たりに内容を拝見しまして非常におそらく、私も含めてですが、委員会の方々には感動しておられると思います。しかも、内容が、私は非常に驚いて拝聴していたんですけども、余りにも美し過ぎるんです、結論が。要するに日本人が全員がこういう美しい心で自分たちの将来を考えていれば全く問題がないわけでありますけれども、実は現実にはそれほど甘いものではない。ただ、この七つのグループの方たちが目的を一つにして、同じ次元、立場に立って、平等の権利を持ちながらお互いに意見を交換されたということで、本当に何か美しい詩を拝聴しているような、そういう感じがいたしました。これと同時に、実はこの小委員会の役目が非常にまた改めて重いものであるということ恐らく委員会の方たちも認識していらっしゃると思います。

今日は、非常に事務局の方でいい場を設定していただきました。今までお聞きになった内容につきまして委員会のメンバーの方たち、もしご質問等がありましたら、これからしばらく時間をかけてご意見をいただければという気がいたしますが、どなたでも結構でございますが、ご質問がありましたら、ご意見でも結構でございます。

お願いいたします。

委員（村上雅紀）

5番のグループの方が発表された新市の地域をどうしたいか、人が育ち、住んでいる人、出ていった人が“わ”をつくっていけるまちという一つの提案をされているんですけど、こういう質問でいいのかどうかちょっとわからないんですけども、出ていった人と、これどういう意味なのかということをちょっと、ストレスのたまらん、帰ってくるのがというのは、これは出ていった人、いわゆる中越、この地域から出ていった人がというらえ方なのか、帰ってくると、自宅に帰る人という、どういうちょっととらえ方をしているか。

委員長（豊口 協）

わかりました。それじゃ、牧野さんか片山さん、ひとつお願いしたいと思いますが。

5グループ（片山和郎）

9ページのところに書いてあります。明確な答えになるかどうかわかりませんが、説明させていただきます。出ていったという意味は、おまえ、出ていけよと言って出ていったという意味ではありません。

世界に羽ばたいたというふうに理解していただきたいと思います。教育とか、そういうことを乗り越えて、この地域から世界で活躍していった人というイメージであります。帰ってくるのが楽しみというのは、心のよりどころとしてのふるさとというふうに考えました。よろしいでしょうか。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ほかにご質問がありましたら。何でも結構でございます。今日のような場というのは、なかなかこれから設定するの難しいと思いますので、ぜひともご活用いただきたいと思います。ございませんか。

委員（村上雅紀）

4グループのパッチワークというのは、私聞いていて、よくちょっと意味が理解できなかったんですけども、もう一度ちょっと簡単なパッチワークの説明をお願いしたいのですが。

委員長（豊口 協）

済みません、4班の方でパッチワークを。どなたでも結構でございますが。

4グループ（陶山勝弘）

例えだと思っていただければいいと思うんです。一つ一つ物であったり、あるいは物理的な地域であったり、それから組織であったり、老人会とか、そういうものでもいいんですけど、要するに1個1個今ある環境をばさっと変えようとかと、そういう意味合いじゃなくて、それをお互いに交換し合っていく、つなぎ合っていくという意味でパッチワークといういわゆる芸術の例えで私どもの方は挙げたものであって、どう説明したらよろしいでしょうか。いかがでしょう。

委員長（豊口 協）

おわかりでしょうか。本来のパッチワークというのは、要らなくなった端ぎれなんです。本来ならどこかへ捨てちゃうんですけども、それをそれぞれの個性あるものをたくさん寄せ集めてつくっていくと、まとまった一つの情報量の非常にたくさんあるきれができてくるわけです。ですから、要らないもの捨てるというんじゃなくて、今非常に重要なもののそれぞれを重ね合わせて、つなぎとめることによって、さらに価値ある内容のものが生まれてくると、こういうふうに解釈してよろしいんじゃないかと思いますが、いかがですか。

4グループ（陶山勝弘）

済みません、言葉が足りませんで。

委員長（豊口 協）

他にございませんか。私もこれ拝聴してまして、先ほど申し上げましたけども、それぞれの地域で先人たちがつくってこられた伝統的な文化、もちろんお祭りもあります。すべてありますけども、そういうものは、これはもうかけがえのない、要するに8市町村の宝だと思うんです。ですから、将来一つのまちにまとまったときも、それは共通の宝であるということには変わりない。実は、宝物が増えるということだと思うんです。今までは隣のまちのものだとか、隣の市のものだと思っていましたけども、それが自分たちと同じ地域のものになったときには宝物が増えていく。これは、一種の市民としてのプライオリティーがものすごく高まっていくわけです。私も長岡に住まわせていただいて10年目になりましたけども、今日これ拝聴してまして、僕の住んでいるところにはこんな棚田がきれいなところある

よとか、それから要するに人の手で掘った隧道があって、とにかく16年間もかかって国のお金一銭ももらわないで自分達で掘った隧道があるんだと。こんな人の力で作った文化というのはないだろうということは、これを誇りに今でも思っていますけども、さらに強くなるだろうという気はするんです。そういう意味で前からよく言われていましたけども、人がそれぞれの先人がつくった文化を否定するのではなくて、やっぱりそれぞれがそれぞれの意味を持っているものを高めていくという、これが合併の一つの基本だろうと思うんです。

それから、比較の問題もちょっと出ていましたけども、あるものとあるものを比較して、こっちのレベルが上だとか、低いとかという、そういう判断基準は合併には私は存在しないと思うんです。それぞれやっぱり意味があって価値がある。それを認め合うことによって、初めて大きな飛躍があると思うんです。これちょっと話はずれますけども、日本人の悪い癖で、例えばある国と比較したときに、こちらから援助してやるとか、それから何とかするという、そういう意識は日本人にはありました。今でもある嫌いがあります。しかし、お箸を使わないで手で御飯を食べるとするのはその国の文化であって、決してそれが貧しいとか、レベルが低いという話ではない。ですから、日本人は他の国の文化を認めることを余りしてこなかったし、しようとしなかった。常に自分達はある地域では高いレベルの人間だというふうな意識がありましたから、それが今の日本の現状を生み出してしまっているんだろうと私は思うんです。ですから、それぞれの地域にある文化って、やっぱりそれなりの意味があるし、それを尊重することが新しい時代をつくり上げる一つの鍵になるだろうと、私は今日のご報告を伺ってまして改めて強く感じました。

ちょっと時間の関係もありますけども、他にご意見ございませんか。

お願いいたします。

委員（北村 公）

せっかくこうしてワークショップの委員の方々が自主的に参加された方もおられるでしょうし、また頼まれて参加された方もおられると思いますけども、忙しい中こうして何回か集まっていたわけですので、この方達はやはり主体的に自分のまちをよくしようということを出てきたことは間違いないわけですので、これからまたこういう合併の論議の中で、何らかの形でご参加していただけるような方法立てをまた我々で考えるというか、していった方がいいのではないかとこのように思います。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

他にございませんか。

私は、今の報告聞いてましてうれしかったのは、県庁を持ってこいと書いてありました。私大賛成でありまして、個人的にはどんなことがあっても県庁を持ってきたいんです。人のお金と人の力で自分達を増やす、肥やすということは、これは一番いいことだと思っています。そんな感想もあります。

他にございませんか。

お願いいたします。

委員（朝日由香）

感想ですけど、よろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（朝日由香）

私も皆さんの発表をお聞きして大変感動しました。本当にお一人お一人が主体的にやっぱり自分たちのまちのことについて、市のことについて考えているなということを感じました。こういう方々が本当に各地域でやっぱりこれから多くの人達がそういうことを考えていくまちづくりということが本当に大事なことなんだなというふうに改めて皆さんのお話を聞きながら強く思いましたし、それからいろんなテーマ、いろんな意見が出ていましたけど、いろいろ皆さんの統一したご意見を聞くと、やっぱり枠組みを取っ払って、やっぱり新しいものをつくっていくんだから、今までのもので、もちろん文化的なもので大事にしていかなければならないものはいっぱいあるんだけど、やっぱり新しい30万都市を目指して、何を目指していくべきなのかということをやっぴり皆さんすごく真剣にご意見を出していただいたんだと。皆さん前回のときに各町村の発展計画等いただきたいということでいろいろ見せていただいたんですけども、現行今までに重ねてきたものといろいろありますが、やっぱり本当にこれからどういうふうな共通したものをつくっていくのかという視点から、改めて私たちの委員会で考えていくことが大事なんだということをお聞きしまして強く感じました。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。前回朝日さんからのご要望がありまして、それぞれの市町村の発展計画の本送っていただきました。私はもう一つ予測をしておりまして、おそらく全部内容同じだろうと。ちょっと失礼な言い方ですけども、そういうふうな感じがしていたんです。実際拝見いたしまして、やっぱり中身は大体同じであると、それが認識できたということは一つあるんですが、今日の七つのグループの方達の話というのはそれを超えていたような気がするんです。非常に内容的に生きていたと。言葉の表現じゃなくて、生きていた内容だったと私は思いますので、本当に素晴らしい報告をありがとうございました。委員長として、改めてお礼を申し上げたいと思います。

もし他にないようでしたら次に、たくさん今日は議題がございますので、移らせていただきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

はい。

事務局（竹見）

ご都合により、ここでワークショップメンバーの一部の方々がお帰りになられます。

事務局（北谷）

済みません、私この長岡地域任意合併協議会の事務局長をやっております北谷と申します。本当に今日まで皆さんありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

それで、ワークショップの一番最初のとき私ごあいさつ申し上げましたが、そのとき言葉を覚えていらっしゃるとうれしいんですけども、私は申し上げたのは住民の皆さんがそのまちのオーナーであると。言葉をかえると、まちというのは皆さんの持ち物なんだと。だって、皆さん、ちゃんと税金払っているんだから。その自分たちの持ち物をどうしていくかというのは、今後皆様方と我々行政と一緒に知恵を出して頑張っていきたいんだと。その知恵を出してほしいというお願いを申し上げました。それで、今日皆様方の発表を聞いていて本当に熱くなりました。やっぱり共通していることは、それぞれ今八つの地域に誇れるもの、いや、大事にしていかなきゃならないものというのがあると。それをどういうふうに大事にしていくのか。住民参画、あるいはその地域で行政も一緒になってやっていくと。先ほどパッチワークという言葉ありましたが、八つの地区がそれぞれ輝く、元気になることが30万都市全体が元気になっていくんだというふうに私は理解しております。それで、この任意合併協議会で今議論の焦点になっているのが地域自治をどう担保するかというのが今最大の焦点になっております。それで、今日発表いただいたことを十分今後とも我々事務局で参考にさせていただいて、地域自治をどう担保していくかということに今後も努力していきます。本当に今日までありがとうございました。（拍手）

委員長（豊口 協）

どうも本当にありがとうございました。（拍手）

委員長（豊口 協）

それでは、時間の都合もございいますので、次に入らせていただきます。

続きまして、地域アンケート調査の結果につきまして事務局からご報告をお願いします。

事務局（竹見）

資料ナンバー2をごらんください。1枚めくっていただきますと、地域アンケート調査（本調査）概要ということで記載しております。前回中間報告ということで、5月1日の3,278票の回収の内容でご報告をさせていただきました。本日は、最終の回収の5月9日の4,327票の最終結果ということで、集計結果と、それから分析について詳細にご報告をさせていただきます。ページ数が50ページということで非常に長いページになりましたけども、全体の集計、それから分析の他に各市町村別に集計結果、それから分析等も行ってございまして、これらを参考にしながら皆様方からごらんいただきたいと思っております。

詳細は、コンサルタントの方からご説明いたします。

コンサルタント（岡村）

お疲れさまです。建設技研・UFJ総研の岡村でございます。座らせていただいて説明をいたします。

地域アンケートの調査、これは先ほどのワークショップが自由なアイデア、発想ということですが、このアンケートの役割は広く一般の住民の方の意向を把握したいということ、それから新市構想時の裏

づけとしての資料、そういった役割があると思います。時間の都合上、駆け足で説明をいたしますが、特に途中の経過や分析の手法というより結果のポイントについて説明をしていきますので、よろしくお願ひします。

1 ページは結果の概要で、回収率は62%ぐらいだったということでございます。

飛ばしまして、3 ページです。地域への愛着・満足度・期待、ここでポイントは一番下のところにありますように行政サービスなどにもっとよくなる可能性はということで、十分よくなる可能性があるという方が約7割の方がそういうふうに思っているというふうなことでございます。

4 ページには、その市町村別の内訳がございます。市町村それぞれ違いがございますが、大体こういった傾向になっているということで、ごらんいただければと思います。

5 ページにまいります。合併に対する期待と不安、ここではグラフが上と下にありますが、上のグラフが合併に際し、期待すること、下が不安に思うことです。上位のポイントでございますが、まず期待することということでは、組織の効率化などで行政経費を削減できると。それから、斬新なまちづくりや行政サービスを実施することができると、そういう点での期待と。それから、不安の方で見ますと、住民の声が行政に届きにくくなると。それから、市町村の伝統や特色が失われていくと。それから、中心部が栄えて周辺部が寂れてしまうと、そういった不安がございました。周辺部が寂れてしまうということについては、特に長岡市以外の方が50~60%という高い回答を寄せております。それから、伝統や特色が失われていくという不安に対しては長岡市が逆に高くなって、他市町村が低いという状況でございます。これらは6 ページ、7 ページにそれぞれの市町村別の内訳がございます。

飛ばしまして、8 ページです。市町村合併に対する基本認識を伺いました。これは前回のときもお示ししましたが、ポイントとしてはどちらとも言えないという方がまだ多いということ。それから、よく合併についても知っている人、知らない人、それから影響があると思う、無関係だという方がそれぞれ余りどちらに偏っているということではなくて、それぞれ回答の方がいらっしゃるということでございます。それらの内訳が9 ページでございます。特に基本認識の中で、大いにある、少しはあるという方が全般的に割合が多いというのがここで示されております。

10 ページにまいります。設問4 というところで聞いたものですが、個別行政テーマの現状満足度と今後の重要度、これは青のプロットしたものが現状の満足度、赤が将来の重要度です。上に高い方がその割合が高いということですが、その二つを差を見たときに差が開いているものが一つの現状に対して重要度が相対に高いということで、課題が大きいという見方ができると思います。それぞれ現状で満足が高いというふうに見られましたのが道路やトンネルの整備とか、下水道の整備とか、そういったインフラに関することが多かったように思います。それから、将来の重要度についてですが、そういう点ではかなり幅広い意見が高かったと思います。安全で安心とか、地域医療とか、老人、障害者福祉の問題、それから公害防止、省エネルギーの問題などがございます。

11 ページをごらんいただきますと、それら現状と重要度の認識との複合分析ということで、表が色分



けで四つに分かれておりますが、ここでは左の上の重要というところを注目していただいて、ここに書かれている例えば商店街の活性化ですとか、地場産業の振興、それから公共施設のバリアフリー、そして老人や障害者に対する在宅サービス、そういったここに書かれている問題が課題が大きいというふうに見えるかと思えます。

次の12ページです。ここでは、今の前のページで個別の行政のテーマということを手挙げておまして、それを図化したものでございます。最も重要だとされたのがお答えの中で河川や森林などの自然保護、それから上下水道や集落排水施設の整備充実とか、静かで落ち着いた住環境の整備とか、そういったものがこの図で言うと右の上のところにとまとまったグループになります。これは自信、飛躍と書いてありますが、こういった強みを伸ばすということにとらえられるところだと思います。それから、左側の上にとまとまる場所ですが、例えば製造業の振興ですとか、商店街の活性化、そして新しい産業や事業の育成と、どちらかといえば産業とか経済に関連するものが多いものでございますが、これはこれからの期待とか、希望とか、そういうふうにとらえられる項目だと思います。次の13ページ以降は今のものを各8市町村別に分析したもので、大きな楕円形の丸が3色ございますが、これで多少やっぱり市町村ごとに傾向が違うんだなということを見ていただければと思います。

17ページにまいります。個別行政テーマの複合分析、これは先ほどありましたのが言い漏れましたが、産業とかハード関連のものでの分析、今の17ページのものがソフト、行政運営の関連の分析でございます。ここで特に言えることはやはり右の上のところ、例えばごみの回収、分別、リサイクル化、そして生活習慣病予防、健康づくり、それから保育園や幼稚園、子育て支援、こういったものは現状としても強みであるということで、その強みを伸ばすということが期待される部分でございます。それから、左の上のところ、在宅サービスですとか、バリアフリー、そして学校教育、教育高度化と、そういったグループはこれからの新しい対策が必要になる部分だという、そういうとらえ方でございます。特に全体としては医療、福祉及び環境関連、そういったテーマが中心になっておりました。18ページから各8市町村の分析がでございます。

飛ばしまして、22ページでございます。次の設問5というところに入っておまして、現状の地域像、ここではグラフがありまして、上から自分の市町村に当てはまるということで、特に8市町村まとめて強調されているのが安全、安心のまちと、歴史のあるまち、地球に優しいまち、都市基盤の整ったまちと、こういったものが多いものでございます。ただ、8市町村別で見ますと、その中で1位となっているものは、この同じページの上にあります長岡市が歴史のあるまち、見附が安全、安心、栃尾が安全、安心、中之島が安全、安心と、安全、安心が非常に多いです。それから、越路で地球に優しいまち、三島で安全、安心、山古志で安全、安心、小国で地球に優しいまちと、そういうふうに分かれてきております。

同じように23ページですが、今後ありたい地域像というのを聞きますと、やはりこのグラフの上位では働きやすいまち、高福祉のまち、それから安全、安心のまち、自慢できるまちと。各市町村別に見る

と、それぞれ違いも多少ございます。小国町で自慢できるまちというのが一つ特徴かと思えます。

24ページにまいりまして、地域像の「いま」と「これから」に関する複合分析と。現在そうであって将来もそうありたいという項目では、安全、安心と、それから地球に優しい、人づくりのまち、自慢できるまち、こういったものがございます。それから、現在そうでないが、今後そうなりたい、グラフでいう左の上でございますが、働きやすいまち、高福祉のまち、健康、長寿のまち、こういったものが高いポイントを示しております。特に働きやすいまちというのが非常に高いというふうに見てとれます。

25ページから同じく8市町村のそれぞれの分析で、これもやはり楕円のグループが多少違うということとがわかるかと思えます。

29ページです。優れている地域資源、これ前回もご報告しましたが、やはり圧倒的に高いのが花火、そして信濃川の河川、米、米作、そして米百俵、酒造、それから変化に富んだ自然と、そういったものが高いです。やはりこのグラフの下に少ないというのが決して相対的に価値が低いとか、そういうことではございませんで、やはり特化してそれぞれ下位でも大事なもの、地域に限られたものということで上がっているということで注目すべきだと思います。

それから、飛ばしまして31ページにまいります。すぐれているものと同時に、大切な地域資源というのを聞いておりまして、それぞれ意味合いが違いますが、大切な方でも花火、信濃川、それぞれここに挙がっているとおりでございます。

これらを33ページで両者の複合分析をいたしました。33ページは、34ページと2枚1組になっておりまして、右側にいけば大切にしたいが強くなって、上にいけばすぐれているが高くなるということでございます。グループとして、ここで先ほどから挙がっている信濃川や米や米百俵、こういったものが高いグループ、右上のグループになっておりまして、地域の意向に沿って地域発展のための資源というふうにとらえられるかと思えます。自信、飛躍に関連する部分かと思えます。

同じように34ページですが、今の33ページより多少低いんですが、やはり活用ができるということで、この右上のところ、全体から見れば真ん中のあたりになるんですが、田園風景とか、縄文、戊辰などの歴史史跡と、それから各地の郷土の食べ物と、そんなものが可能性として考えられるものでございます。

35ページです。地域資源の複合分析の3番目としまして、これは8市町村を表にしまして別々にランクづけをしたものです。やはり共通して信濃川や花火はこの市町村でも挙がっているものでございますが、やはり特異的、特別に強いのは山古志村での牛の角突きや、錦鯉の養殖とか、それから越路や小国にありました蛍の飛ぶ風景、そういったものが限られたところで高い位置を示しております。これらのグラフが36ページから4ページ続いて、8市町村別に見ることができます。

40ページです。地域パーソナリティの現状認識と今後のありたい姿ということで、ここではそれぞれ答えている方に自分たちのその地域がどういうパーソナリティー、個性があるかということを知りたいもので、現在当てはまるもの、現在当てはまらないけども、今後こうなりたいと、その両方を聞いておりまして、当てはまるものが黒のグラフで、今後ありたいものが白いグラフで、それぞれ大きく違いがあ

るということがわかると思います。現在の姿ということ言えば、おとなしいとか、慎重である、人情に厚い、協調性があると、こういったものが挙がりまして、今後になりたいということでは積極性がある、向上意欲がある、チャレンジ精神がある、責任感があるなどが挙がっております。

これをグラフで見ますと41ページです。現状というのは右の下のところです。現状の丸が囲ってあります。一番典型的な言葉で言うと、慎重であるとか、おとなしい、こういったものが現状の認識でございます。左の上にいきまして、ここでこうになりたいという希望というグループで、向上意欲とか、積極性、チャレンジ精神などがここにありまして、今の現状から希望の方に斜めにいわゆる自己変革、自分たちを変えていきたいという流れがここで見てとれるのではないかと思います。同時に、協調性とか、人情が厚いというのは右の上にあります、これ現状でも認識が高いし、今後もそれは維持していこうという、そういうグループでございます。同じく42ページからは、8市町村の分析をしております。これもやはり市町村別に少し違うということが大変興味深いところもございます。

46ページにまいります。最後の設問のところですが、ここでは地域の人柄・性格分析を行いました。結論で申し上げますと、この長岡地域の全体の傾向としては性格分析、4区分の分析、性格の類系がありますが、分析型というのがこの長岡地域では全体の傾向が高いということがわかりました。それをまた8市町村別でいわゆる偏差値、真ん中が平均で、右上が高くて、左下が低いということでございますが、それをプロットしてみますと、見附市や長岡市は分析傾向が強いと。ほかは、それぞれまた違う傾向があるということがわかります。

48ページにいきまして、市町村合併に対する基本認識と人柄・性格的な特性の関連という整理をしております。やや難しい面があると思いますが、結論的に申し上げますと、右の下のところにそれぞれ説得型、相談型、分析型、指導型とありますが、この右の下、表の右2列のところ、市町村規模は大きい方がいいのか、小さい方がいいのかとか、それから雇用や住宅環境などで期待できるのか、懸念されるのかと、そういうのを聞いたのに対して、その方の傾向として、説得型の場合と指導型の場合とか、大きく性格の類系と、その答えたものが相関があったというのがここでわかるところでございます。

49ページにまいります。地域マインド、これは心とか、気持ちとかということで、意味としては人間像というふうに言えると思いますが、地域の間像、それと今後の活用方向でございます。この図が幾つか整理されているのは、左の上のところにパーソナリティー、個性の特性がございます。これ先ほど41ページで複合分析をしたときの分け方でございますが、この中で慎重、おとなしいとか、それから積極性、向上意欲とか、協調性、人情が厚いと、そういうふうに分かれる個性、それが実際に行動として現実、それから希望、期待、自信、理想、飛躍という概念の中から行動軸であったり、情緒軸であったりすると。これを人柄、性格分析ということで整理しますと、ここに三つ挙げておりますが、現状の人間像、それから2番目として自己改革の可能性のある人間像と。それから、地域外に対して誇るべき人間像と、そういう段階になるかと思えます。

下半分を見ていただきますと、では地域の間像、地域マインドの間像というのは、その可能性

の方向というのはどうなるかと。これは例示でございますが、一つは地域の外に発するもの、遡及するもの人間像と、地域の中に自己改革を進めるべき人間像と、そういうふうに切り口があるかと思いません。それらを生かすということで右にまとめておりますのが、地域の外へ発するものであれば長岡地域がよい品質をつくる地域であると。これは、物づくりなどに実直性をキーワードとしたブランド化ということでまとめられると思うんですが、そういう地域という方向が出てくると。それから、地域内の自己改革を進めるべき人間像ということで言えば、現状は非常におとなしくて慎重であるということがありました。同時にこの地域内で今後地域内の連携とか交流を活性化して、これは気持ち的にはそういうことで非常に気持ちよく過ごせるという、そういう地域にして、ストレスのない地域づくりにすると。ここに挙げました二つの地域の外と地域の中でのこういう方向性を両輪としてまとめ上げれば、例えばですが、長岡地域がコンベンション、交流都市になると、そういう方向づけもこの分析の中から上がるんじゃないかということをご参考に出しております。

最後になりますが、この市町村別のデータというのは地域全体の分析のための構成要素でございますので、余り各市町村別にこだわらずに見ていただければというふうに思います。それから、このアンケートそのものについても、いわゆる木を見て森を見ないという言葉がありますけども、やはり全体の傾向とかとらえた結果、あくまでもこのアンケートの結果は市民の平均的な一つの傾向だということで、それぞれの方は非常に個性あって、そういう集合体でございますが、そういうアンケート結果ということで、客観的な資料としてお示ししたものでございます。

50ページは特に触れませんが、調査結果のまとめということでごらんいただければと思います。

以上でございます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

時間がどんどん押してきておりましたちょっと心配なんです、これはこの前も中間発表がありましたから、よろしいですね。特にご質問なければ、次へ移らせていただきますが、よろしゅうございますか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、続きまして有識者ヒアリングの調査結果につきまして、これも中間報告受けておりますので、ひとつよろしく願います。

事務局（竹見）

資料ナンバー3の有識者ヒアリング調査報告書をごらんください。今回は、前回掲載することができなかった西澤新潟大学教授様と林家こん平様を、お二人を追加として記述させていただきまして、全員の方々の有識者のヒアリング調査の報告書としてまとめさせていただきました。

前のご報告させていただきましたように、2ページ目には皆様方のプロフィールとか、次第日時、それから中は太字のところは西澤様と林家様のお二方の取材項目を掲載させていただいております。

それから、9ページと10ページには、地域外の有識者の方々のヒアリングの用紙をお名前を入れながらまとめてみたものでございます。

それから、申しわけないんですが、ちょっと訂正がございまして、4ページをお開き願いたいんですけど、真ん中ほどに「(見附)」と書いてございまして、「繊維産業における町民」と書いてございませけれども、「市民」の間違いでございますので、ご訂正とおわびを申し上げたいと思います。

それから、9ページでございませけれども、石積忠夫様の真ん中の今後への期待、要望、懸念ということの真ん中ほどに括弧がございませけれども、「民宿の活用」と書いてございませますが、これは「民泊」の間違いでございますので、ご訂正のほどよろしくお願いいたします。

それでは、西澤様と林家様の取材に実際に出かけましたコンサルタントの方から簡単にご説明をさせていただきます。

コンサルタント(大島)

UFJ総研・建設技研ジョイント・ベンチャーのスタッフとして活動しております地域プランナーの大島と申します。

今報告していただいたとおりですが、9ページを開いていただいて追加部分のみご報告したいと思います。前回報告のときから追加部分は、ここの林家こん平さんと新潟大学の西澤教授です。それぞれ非常に有益なことをいただいたんですが、読んでいただくとして、こん平さんの方は地域活性化のための合併をとにかく頑張ってくださいという力強いエールをいただきました。それを中心に誇るべきものはたくさんあるというふうなことでとか、とにかく元気になりましょうというメッセージをいただいております。改めて取材者としてご報告すれば、小国町出身で有名な林家こん平さんですけれども、想像する以上に本当にこの地域に対する愛着と思いをお持ちの方です。1時間半事務局長と一緒に伺ったんですが、とにかくすごい地域に対する思いのエネルギーに、ほとんど圧倒されたということを報告しておきます。

それから、新潟大学の西澤教授には県全体の視点、あるいは産業、あるいは男女参画社会、その他いろんな視点からの的確なアドバイスをいただいております。中心はとにかく製造業としての伝統、それから地域資源として誇れる教育及び学問、大学を含めて、そういったところの伝統をより、もう一度活性化させて生かしていく。製造業を中心に、特に新潟県内における製造業の中核となることは、新潟県全体にとっても非常に重要であるというアドバイスをいただいております。そのためという意味も含めて教育、創造性、オリジナリティーを持つ教育というのを充実させていって欲しいというアドバイスです。その他検討すべきものをいろいろいただきました。それは書いてあるとおりです。もし説明不足でしたら、また後ほど説明したいと思います。

ここ前回は含まれていました方も含めて、県外者の方のみ9ページ、10ページで表にしております。

今回県外者の方、どなたからも先ほどの林家こん平さんと同じような思いをいただいております。皆さんに共通して言っていたことは、地域で住んでいる方、地域で生活している方以上に、外に出ると、ここの地域のよさが非常によく見えてくる。いいものはたくさんあるんだから、もっと自慢して、もっと自信を持って合併についての取り組みをして欲しいということを地域外居住者の方、出身者の方からの共通の声です。それを最後にまとめてご報告したいと思います。

なお、8ページまでのところで太字になっている部分が今回の追加事項です。その他は前回中間報告で出したものと同じですので、一部間違いもありましたが、改めて確認していただきたいと思います。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。これにつきましては有識者のご意見でございますので、ゆっくりひとつ委員の方々お持ち帰りいただいて、もう一度しっかりと目を通していただきたいと。それで、次回以降もしご質問があればお受けしたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

次へ移りたいと思いますが、デジタルマップ、これにつきまして説明をお願いします。

事務局（竹見）

デジタルマップについて簡単にご説明をさせていただきます。

資料ナンバー4、デジタルマップについてという資料をごらんください。デジタルマップにつきましては、目的としましては市町村合併、いわゆる市町村の行政関連の資料というのは多くが地図上に落とせるということで、いわゆる現況調査も行いましたけれども、そういったいろんな情報を地図上に落として、今後のご協議あるいは検討に使っていただきたいということです。

2ページをごらんください。デジタルマップのシステムイメージということでこちらに掲載しております。真ん中にありますけれども、例えば人口密度などの分布ということをクリックしまして、任意に拡大をすることができて、大きくもしたり、小さくもしたり、ポイント、ポイントを見ることができるといことです。

それから、3ページ目を飛ばしまして、例えば4ページなんですけど、こちら国勢調査の人口密度の分布とか、こういったものもあらかわすことができると。

それから、5ページをごらんいただきますと、上の図が15歳未満の人口密度の分布です。下が中学校の位置を落としてあります。こういった例えば上の図と下の中学校の位置を重ね合わせたり、それから次の6ページでございますように、上の図が車で5分以内に警察関係施設へ到達できる区域をすぐに地図上で落とすことができると。例えばそれを応用しますと、5ページに戻りますけども、適正な中学校区を表示したり、それから例えば徒歩10分以内で着ける位置とか、そういったものをコンピューター画面上で自由に検討することができると、そういったようなシステムを現在各市町村さんから新しいデータに塗りかえている作業を行っておりますんで、今後こういったことを活用していくということでご報告いたします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。これは今でも開けるんですか。見られるわけですか。

事務局（竹見）

作業中でございます、一部のデータは取り寄せることが可能です。

委員長（豊口 協）

そうですか。そのうち開いていただいて、ごらんいただけるようになると思いますので、よろしくお願ひします。どうもありがとうございました。

では、次に自治体ワークショップにつきましてご説明お願ひします。

事務局（竹見）

それでは、自治体ワークショップについてご説明をさせていただきます。

資料ナンバーの5をお開きください。座ってご説明させていただきます。まず、自治体ワークショップの開催の背景でございますけども、1番に書いてございます。上のポチに書いてありますように新市将来構想というのは、いわゆる地域のより多くの方たちの参加が不可欠ですということで、今回までのワークショップ、それから有識者ヒアリング、それからアンケートということで地域の多くの方々から参加していただいていると。それから、今後も行政の方からも参画していただくということになります。それから、もう既にそういった材料といいますが、素材がそろっているということもありまして、今後その地域特性とか資源を大切にしながら、新市のまちづくりについての検討が急務であるということです。

それから、2番の目的なんですけれども、例えばこれから委員の皆様方から新市のイメージとか、それから実現する、そういったあるべき姿とか新市のまちづくりを実現するために、行政も参画して委員の皆様方や、それから住民の皆様方の思いを実現するという、そのためには各市町村で個々に考えるのではなくて、構成8市町村が協力し合って新市将来構想を検討していくということで、説得力のある、地域が納得できる構想づくりができるんじゃないかということです。

それから、3番のワークショップのテーマでございますけれども、こちらの三つのテーマ抱えております。地域特性、それから資源、先ほども地域の宝物という言葉ありましたけれども、そういった宝物とか素材の抽出をいたします。それから、地域別の整備方針づくり、それから方針実現に向けての活動展開の検討を行っていくということです。

それから、ワークショップの達成目標につきましては、こういった素材などを抽出しまして、新市の地域らしさ、価値実現に向けた地域の役割を考える。何ができるかと、そういうことを考えていきます。

それから、そういった地域の役割を果たすための整備方針を考え、最終的にはその実現活動展開のあり方を検討していくということです。

それから、5番ですが、成果の取り扱いといたしましては新市将来構想策定小委員会にご報告いたしまして、また将来構想策定に向けて皆様方から検討していただくというふうなことになります。

それから、参加者等でございますけれども、構成市町村の職員の方々、各市町村3名ということで参

加いただきまして、計24名で行っていくということです。それから、ファシリテーター、全体の進行役ですけれども、先ほど住民のまちづくりワークショップの全体コーディネーターを務めていただきました小嶋様からまたファシリテーターをお願いします。それから、運営主体につきましては合併協議会の事務局及び委託コンサルタントということになります。

以上まとめました7番につきましては、ワークショップの流れということで記載しております。最終的には、こちらの方で検討いただくというような流れになっておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。実は、今日はこの後8市町村の合併新市のイメージにつきまして各委員の方々から本当に腹を割ったご意見をいただく予定になっておりましたんですけども、今日の最初のまちづくりワークショップの報告が非常に濃厚でございまして、非常に内容のあるお話をたくさんいただきまして、時間的な配分といいましても、あのおときのご報告というのは何物にもかえがたいやっぱり意味を持っていたと思います。そういうことを今日十分聞いていただきました。それから、今までの事務局サイドでの調査結果につきましても今日でこれファイナルでございまして、こういう実態をひとつ把握していただいてご理解いただきたい。今日お約束の時間が8時半でございますので、今日はこれで8時半で終わりますが、次回事務局の方ともご相談申し上げまして、この委員会として今後どうするかということをおよそ今までのデータをベースにいたしまして、ひとつ大いにご議論いただいて、将来に対する展望を固めていきたいと、こういうふうに考えますが、事務局、いかがですか。

事務局（北谷）

時間が押して大変恐縮なんですけども、せっかくですので、本格的な討議は次回に持ち越しといたしますが、次回の討議の参考になりますと言うとあれですけども、導入部分として、せっかく今委員が集まっていらっしゃいますので、何か一言ぐらいおっしゃりたい方がいると思いますので、少しぐらいは結構です。

委員長（豊口 協）

まず、じゃ最初にちょっと時間オーバーしますが、よろしいですか。

そういうことで今後ご予定もおありになると思いますので、今日のこの1日の2時間の報告ないしはさまざまな意見交換の中で、次回に対して三つ目の8市町村合併新市のイメージについてということをおよそベースにして、何かご発言していただける方ありましたらお願いしたいと思いますが。

お願いいたします。

委員（村上雅紀）

まず最初に、要するに時間で切るのというのはちょっとよくないような気もいたしますので、できれば議論がある方は言っていた方がいいと思いますけども、まず新市の将来イメージについて大変一般的にこちらにいらっしゃる委員の方はある程度議論に携わっていますので、内容的にはよくわかり



ますけど、これを一般の人に新市のまちはこうなりますといったときに、結果として、ああ、そうなのという答えではちょっと難しいような気がするんです。それで、ちょっと表現があれなんですけど、うそ、まじ、本当がとか、そういうぐらいのやっぱり説得力のあるイメージ構想でないと、なかなか難しいような気がいたしますし、仮に私の個人的な意見なんですけども、一つのスローガンのなものを一つの土台にして、そこから持っていけるような形、例えばうそ八百でもないんですけども、目指せ日本一、オンリーワンという何でもいいと思います。これとこれは全国どこにも負けませんと。日本一ですと。オンリーワンですと。その日本一も抽象的ではなくて、こういう裏づけ、こういうデータのもと、こういう結果のもと、これとこれは絶対どこにも負けませんと。何年後にはこうやれますと。してみせませすというぐらいの将来構想がないと、やっぱり絵にかいたもちになっちゃうんで、やっぱり具体的にこれとこれはこういうふうになってみせませすというぐらいの、そういうものを一つの土台として探し出す。それも1個ではなくて、例えば七つとか八つ、8市町村あれば八つでもいいんですけども、具体的にそういうところまで持っていけないと、なかなかイメージ的にわかないと思うものですから、今のワークショップ、有識者ヒアリング、アンケートをもとに、具体的にこれとこれは何年後にこういうふうにしてみせませすというぐらいのやっぱりデータの裏づけを中心としたものは、ひとつつくっていった方がいいのかなというふうに思います。そこへ持っていくには、具体的に今はこういうふうな形です。将来的にはこうなります。だから、今これをやるんですというふうな一つ一つの裏づけたデータというんですか、30年後にはこういうふうになります。だから、今将来の一步としてこうなりますというぐらいの構想はひとつあってもいいんじゃないかというふうに思うんですけども。

委員長（豊口 協）

ごもっともだと思います。ただ、今ここで議論しているのは市民レベルの話なんですけども、目的としているところが一つあるんです、行政的には。これは、はっきりしているわけです。それは一つそのまま進んでいるわけですから、数年後には要するに行政はこういう形になりますよと。それは、もう必然的にそうなるんだろうと思います。それに対して市民が、市に住んでいる人たちがそれをベースにしてどういう地域にするのかということは今議論しているんだと思うんです。ですから、二つの要素がかぶさってくると思います。私も今のご意見に非常に賛成なんですけど、やはりやる以上はどこかのまちと同じようなもんつくってもしょうがない。だから、要するに変な言葉ですけども、例えば日本で初めてとか、日本でただ一つとか、他にはないとか、そういう意識で意見交換をして構成していくべきだろうと私は個人的には思っております。

他にご意見ございませんか。

委員（小池 進）

先回のこの会で、長岡市全体の新しい市のイメージをどう描くかということで、各市町村がつくっている総合計画を見直してみようじゃないかという声がございまして、この間も分厚いのが送られてきましたんですけど、とてもとても全部なんか目を通すわけにはいきませんが、一応どんなキャッチフレーズ

で皆さん考えているのか。それもいろいろなスパンといいますか、一つの概念の違いというのあるんですけれども、大体表現としては将来像というのは1文節におさめているところ多うございます。そして、それを将来像に近づくための基本的な方向とか、あるいは基本姿勢だとか、そういう表現しているところもあるわけです。そのいわゆる基本方向や、あるいは基本的な姿勢、そういうものを見てみますと、ほとんどが5項目ないし6項目挙げているわけです。それを全部書き出してみまして、一覧表にしてみましたら、みんなつながるんです。みんな同じことになるんです。これでいいのかと。これを合わせて新しい長岡市になると思うんですけれども、それはまだはっきりしませんが、新しい市の夢といいますか、イメージというのはこれで描けるのかなと非常に疑問に思いました。

今日のワークショップの発表の中にも、そういうちらっとそれに似たようなニュアンスの発表がございまして、だからどういう角度で切り込んでいくのかという、その前にもう一回見直してみる必要あるなということで、私どもは三島町としましては、長岡市になったときに三島町としてどんな役割があるか、それは今自分たちの持っているいろんな宝物から探し出しまして、まとめてきているわけですが、ある程度まとめ始めてはいるんですが、そういうのを各市町村が出し合って論議すれば、これはおもしろいかもしれんぞと、こう思っているんですけども、その時間的なあれはどうか分かりませんが、そこで何か今日出されたような自治体ワークショップの開催というのは考えられたのかなというふうにも思うわけです。その辺のこと、事務局から自治体ワークショップの開催の目的も書いてございますけれども、もう少しそれらの関連を説明していただくとありがたいと、こう思ったわけです。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。これ何か事務局で。

お願いいたします。

事務局（竹見）

まず、自治体ワークショップですが、今ご発言いただいたとおりでして、各市町村3名ずつと。この3名の中には、先日やっとの思いで皆様方にお送りした分厚い八つの長期計画があるわけですが、それぞれの市町村の長期計画の担当者が当然ここに入ってきます。例えば八つの計画があると。八つ足すと、例えば100の政策が重要だということが書いてあったとしましょう。ですから、合併して100をやるんじゃないということですので、足したら100になるんだけど、行政のワークショップで、じゃどうするんだということは詳細を事務方として詰めます。その結果はもちろんこの場にも報告いたしますが、ということでワークショップの趣旨はご理解いただきたいと思えます。

それで、先日事務局から皆様方にお送りしたのは、8市町村の計画を送ったのはそれぞれ見ていただいて、これは要らないとか、これは要るとか、そういう取捨選択をしていただくために送ったものではありません。大変お忙しいとは思いますが、せっかく送りしましたので、ぜひとも目を一度通していただきたいと思えます。それで、現状はこうなっているんだと。合併が一つの契機ですので、合併を契機と

して現状の計画を見直すのは当たり前の話であります。それで、じゃ見直すときに皆様方の考える参考としてお送りしたということでもありますので、ひとつよろしく願いいたします。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。

委員（小池 進）

はい。

委員長（豊口 協）

ほかにどうぞ、ご意見を。

今日の2時間のいろんな意見交換といいますが、報告を受けまして、市民レベルといいますが、人達のやっぱり意識の高さというのは、はっきりわかってきているわけです。これからやっぱり自治体の一つの交流といいますが、コミュニケーションの中から、じゃあどうするのかというふうなもう一つの流れがやっぱりはっきりと見えてこなきゃいけないだろうと。行政サイドと市民サイドというのは、これ基本的に見方が違うところがありますから、それを一遍どこかでぶつけ合わなきゃいけないという時点が出てくると思うんです。そういう作業も将来は必要になってくるだろう。この小委員会としては市民レベルの意見と、それから自治体レベルの意見、これは両方ともやっぱりかなり内容を分析をして、十分理解をして、その上で一つの方向、ベクトルをはっきり出していく必要があるだろうと私は思っています。ですから、これからますます意見交換というか、情報交換というか、そういうことが重要になってくるだろうという気はするんです。たった2時間で1回やっていますけども、ひょっとしたら近い将来、デスマッチじゃないですけども、かなり時間をかけて意見交換をしなければいけない事態が起きてくるんじゃないかというふうな気が今日は私はしておりますけども、そういうときにはひとつよろしく願いしたいと思いたいますが、今日に限られた時間ですが、他にご意見がありましたらお願いしたいと思いたいます。

委員（山本俊一）

まだ自治体ワークショップの開催等でまた資料が出てくるわけですけども、とりあえずの資料がここに出てきたと。それで、本来ならばここで8市町村合併新市の将来イメージについてというふうなのがここに議題に上がっていますが、これを委員の方々にただ漠然とこうやって投げて、じゃああなたの考えを言ってみるといっても、なかなかこれは出てこないだろうというふうに思うんです。そういう意味からすると、一応は資料的には大体そろっているわけですので、そうすりゃこの次の会までにこういうこと、こういうことについて意見をまとめてきてほしいと。それを出して大体のイメージはどういうことなんだろうというふうなものをしていかないと、ちょっとなかなかうまく進まないんじゃないかというふうに思うんですけども、いかがでしょう。

委員長（豊口 協）

大変貴重なご意見をいただきましたが、事務局としてはお考えがもしありましたら。

次回はいつでしたっけ。ここに書いてあります。

事務局（高橋）

次回は6月の11日の予定ですが、正式にまたご案内をさせていただく予定であります。

事務局（北谷）

済みません、その前に今の山本委員のご質問にお答えしますけども、それはおっしゃるとおりそういう局面もあります。ただ、前回どなたかでしたか、委員の名前忘れましたが、どなたかからこの小委員会って何するのみたいなご質問いただいて、我々としては今回は資料の中でウィル、どうしたいんだというのをまず出してください。それが言葉で今日の議題のイメージという言葉になったんですけども、どういう将来像というか、30万都市になって、この長岡地域の新しい市がどうなってほしいのか、どうしたいのかというのを、漠然ながらでも結構です、抽象的でも結構です、各委員で現段階でどうなのかというのをお聞きしたい時間をとりたかったと。結果的に今日は無理になりましたけど、そういう趣旨でございます。そればかりやっても山本委員おっしゃるとおりですので、それはそれとして、そういう時間は次回もまた持ちますが、おっしゃるとおり具体的に考え、ご意見をいただきたい項目とか、そういったものも次回は次回前に事前にお知らせして、それについてご議論いただくと。それとは別に当然材料出てきましたから、ある程度事務的に将来構想の素案の素案みたいなものはできてくるわけですね、その都度。その段階においての素案について、ご審議いただくということだと思っています。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。

委員（山本俊一）

はい。

委員長（豊口 協）

他にご質問、ご意見等ありましたら。

何となく納得できない顔して。

どうぞ。

委員（村上雅紀）

切り口が見つからないと思うんじゃないかと思うんですけども、委員長はどうでしょうか。私ちょっと漠然で。

委員長（豊口 協）

私は、今日も非常にフォーマルな形で話しています。こういうふうになくタイ締めて、こうやってしゃべっているというのは、やっぱりかなり内容的には硬いんです。だから、やはり小委員会というのは今皆さん集まって、それぞれ肩書はお持ちですけども、実は肩書をなくしていただいた方が本来はいい

のかもしれないんです。しかし、それは非常に無理かもしれません。公開でやっている立場から、あの人はああいうこと言っているけども、何かこういう肩書の人じゃないかというふうなことになったときに、非常に話をされる内容というのは難しくなる場合があると思います。だけど、本来ですと、そういう肩書を外れて自由に意見を交換していくということがこの委員会には求められている要素だと私は思うんです。そういうまた立場でご発言をしなきゃいけない、考えなくちゃいけない立場に置かれていると思うんです。だから、今の社会的な立場というものから離れて、本来なら意見交換がしたいけども、非常に難しいということがあると思うんです。

委員（村上雅紀）

最年少の私ではありますけども、ただそれをここで事務局とか云々ではなくて、委員長として肩書云々がありますけども、これどう、じゃ切り口として持っていくんか。例えば具体的なテーマを、じゃ何にしようとかという議論が私すら上がってこない状態なんで。

委員長（豊口 協）

本来なら今日後半でそれやりたかったんですけども、実は出てこなかったと。そのための一つのいろんなキーワードというのがこれから出てくると思うんです。さっきおっしゃったように、日本で初めてというキーワード。じゃ、日本で初めてって何なのかというふうな話になってきたときに、いろんな意見が出てくる。先ほどちょっと私申し上げましたけど、新潟市が今度政令指定都市になったら県庁は要らなくなるわけです。困るわけです、あっちゃ。だから、どうしても困る状態になったときは、じゃ長岡で引き受けましょうと言って、長岡に県庁に来ていただいて、一緒に仲よくやると。これは、日本中のどこを見ても全部政令指定都市ができたときに、そこの県庁の所在がもう要らなくなっていく。横浜市なんか大変なことになっているわけです、県庁は。まちへ出てお昼御飯も食べられなくなっていると、県庁の500人は。そのぐらい寂しくなっちゃっているわけです。やはりお互い将来県庁が存在するかどうかわかりませんが、日本です。そういうことも含めて自由に議論を言えるようなことが必要だろうと。だけど、ここで今私以外の方では県庁は要らないなんておっしゃらないと思います、これは。私は、言える立場にあると思って申し上げますけど。だから、そのぐらいのことが言えれば一番いいんですけども、なかなか難しいだろうと思いますけど。でも、私は委員長の立場としてそういうキーワードが出てくるような実はまとめ方をしていかななくちゃいけないだろうとは思っています。だから、それだけのリスクを委員長としてお引き受けしたときには、自分に言い聞かせて、納得して委員長のこのいすに座っているわけであります。

よろしいですか。

委員（村上雅紀）

はい。

委員長（豊口 協）

他にご意見ございませんか。次回以降は、かなりハードになってくると思いますけど。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それじゃ、長時間本当にどうもありがとうございました。次回以降ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局にお返しいたします。

事務局（高橋）

それでは、今ほども少し話題が出ましたが、次回のご案内予定をさせていただきます。第5回目になります。6月11日を予定しております。時間は、正式にまたご案内させていただきますが、夕方からと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からは以上でございます。

委員長（豊口 協）

副委員長、何かございませんか。

副委員長（二澤和夫）

会議はこれで終わったわけですが、先ほど来出ておりますように、実はここに全部助役が出ているんですけども、助役はなかなか発言しづらいんです、正直言ひまして。というのは、行政もわかっておりますし、現実もわかっておりますし、また助役という肩書外してしゃべれという話もございましたけれども、より円滑にするために先ほど御飯食べながら話はちょっとございましたように一回潤滑油も入れるのもいいのかなというふうな気がいたしておりますが、私の方からそういうの言っはあれですけども、委員の皆さん、いかがでございますでしょうか。

「賛成です」という声あり

副委員長（二澤和夫）

それじゃ、事務局の方にそういうことも含めて、次回になるか、その次になるかわかりませんが、そういった機会を設けていただくように私の方からまた事務局に頼みたいというふうに思ひますが、よろしゅうございますでしょうか。

「異議なし」という声あり

副委員長（二澤和夫）

ありがとうございます。そんなことで、副委員長はそんな発言しかしませんけれど。

委員長（豊口 協）

それでは、これで解散したいと思います。どうもありがとうございました。

午後8時50分終了